

# 名古屋大学生協新入生サポートセンター学生スタッフによる パソコン講座について

大岩徹郎\*1・今泉宇裕\*2・梅宮晴香\*3・水谷麗美\*4・岡部祐介\*5・溝口貴史\*6

Email: renu-staff@coop.nagoya-u.ac.jp

- \*1: 名古屋大学農学部応用生命科学科
- \*2: 名古屋大学情報文化学部社会システム情報学科
- \*3: 名古屋大学農学部応用生命科学科
- \*4: 名古屋大学工学部物理工学科
- \*5: 名古屋大学工学部機械・航空工学科
- \*6: 名古屋大学生協新入生サポートセンター センター長

## ◎Key Words 初心者, 新入生, パソコン講座

### 1. はじめに

私たちは、名古屋大学生協新入生サポートセンターの学生アドバイザーである“ReNU(リニュー)”という団体に所属している。ReNUの活動のひとつとして生協が販売するパソコンを購入した新入生を対象に、毎年3～4月にPC講座を開講している。このパソコン講座で今年度改革したことの報告をするとともに、講座運営をしていくことで浮かび上がってきた新入生の情報リテラシー格差と新入生の求めるパソコン講座のレベルについて考察を行う。

### 2. ReNUについて

ReNUの活動の主な目的は、学生アドバイザーとして新入生の入学準備のサポートをすることである。主な活動内容は、生協加入の手続きや教科書教材の購入方法の案内、一人暮らしをはじめめる新入生に対する住まいの斡旋、そしてPC講座の運営である。ReNUのスタッフは現役の名古屋大学生約50人から構成されており、実際の大学生活に基づいたアドバイス・サポートを実践している。

### 3. 講座の目的

PC講座の目的は、新入生が大学生活で困らないようにパソコンを利用できるようにすることであり、そのコンセプトは、「BASE (Beginner, Advance, Soon, Experience)」である。大学では入学後すぐにレポートやプレゼンテーションでの発表の課題が課されるが、パソコンに詳しくない新入生はもちろん、Officeがある程度使える新入生でも、大学の課題については初心者(Beginner)である。しかし、名古屋大学ではパソコンでレポートを書く方法やプレゼンテーションの作り方を学べるような情報リテラシーの講義がないので、初めての課題の前までにパソコンを使って大学のレポートやスライドを作れる状態になっていなければならない。また、講座ではOfficeのスキルだけでなく、研究などで役立つ発展的な利用方法(Advance)も扱っている。新入生が大学入学後にすぐにパソコンが利用で

きるように、3～4月という講義開始前の時期(Soon)に講座を設定している。さらに、PC講座は、講座の制作・資料の作成・講座の運営すべてをReNUのスタッフで行っている。現役の名古屋大学生が講座を作り、運営しているため、名古屋大学生としての実際の経験(Experience)に基づき、必要な知識・スキルを厳選して伝えられる。受講生の印象に残り、本格的に大学生活が開始してからも、扱った内容を使ってもらえるような講座となるように、内容や雰囲気づくりを意識している。

### 4. 講座概要

PC講座は、前述のコンセプトの下に4つの講座から成っている。セットアップ講座、活用講座、プレゼンスキルアップ講座、理系レポート講座の4つである。プレゼンスキルアップ講座、理系レポート講座をまとめてアドバンス講座と呼んでいる。

2016年度は、セットアップ講座に従来のセットアップ講座とビギナー講座の2種類を設けた(以下「セットアップ講座」と記したら従来のセットアップ講座を指すものとする)。セットアップ講座のみの受講は可能だが、ビギナー講座の受講は活用講座の受講が条件となる。

活用講座では、PowerPoint, Excel, Wordにおける大学生活特有のPCスキルを扱う。活用講座はセットアップ講座またはビギナー講座の受講者のみ受講できる。

アドバンス講座では、活用講座で学んだスキルを活かした実践的内容を扱う。アドバンス講座は活用講座の受講者のみ受講できる。

PC講座の会場は主に大学の講義室を利用している。1教室あたり、講師1人とTeaching Assistant(以下「TA」と称す)3～5人程度のスタッフで運営している。新入生に実際の操作を通してパソコンの使い方を学んでもらうために、講座の大半は講師と同じ操作を受講生が行う操作追従の形式を取っている。講師が使用するパソコンの画面を講義室のスクリーンに映し、受講生がそれを見ながら講師の説明で操作を行う。操作追従の形式だけでは説明が不十分な場面では、スライドを使っ

て説明する。TA は講師の説明についていけなくなった受講生に対して個別対応でサポートをする。また、講座時間調整など講座運営の役割も担っている。

## 5. 2015 年度新学期からの変更

前述のように、2016 年度からはビギナー講座を新設した。これは昨年度の講座運営で問題となった受講生の情報リテラシー格差に対応するためである。昨年度までは、受講生全員が同様の内容の講座を受けていたため、活用講座の段階でパソコンの得意な受講生と不得意な受講生が混在していた。これまでは、前述の講座コンセプトの下に、パソコン用語などの説明も織り交ぜながら、パソコン初心者が分かるようなレベルで講座を行っていたため、パソコンの得意な受講生にとっては退屈な内容となってしまうことがあった。しかしパソコンの得意な受講生のレベルに合わせた講座を展開すると、パソコンの不得意な受講生にとっては理解できない講座になってしまう。この問題を解決するために、活用講座までにパソコンの初歩的な知識を身に付けられる希望者制の講座を設けた。

また、2016 年度は Windows 搭載パソコンに加え Mac を新規で扱った。それに伴いセットアップ講座とビギナー講座は Windows 向けの講座と Mac 向けの講座の二種類を用意した。活用講座とアドバンス講座は基本的に同じ内容で行った。活用講座では、Mac を使う受講生を出来る限り一部分に集め、講師および TA が対応する形をとった。理系レポート講座は Mac 向けの補足資料を作成した。プレゼンスキルアップ講座は Windows と Mac の違いが大きく影響しないため、特別な対応は行わなかった。

## 6. 各講座概要

### 6.1 セットアップ講座

セットアップ講座の目的は、購入したパソコンを受講生が使用可能な状態にすることである。受講生は 12 日程から都合の良い日程を選んで受講する。講座の時間は 2 時間(休憩含む)である。まず、パソコンの初期設定を行い、Windows 10 および Mac OS X の機能を紹介し、操作追従の形式で実際に操作を教える。次に、名古屋大学の学内無線 LAN を利用して、Microsoft Office の設定をする。さらに、講師がスライドを利用して学内でのパソコンの利用方法等の説明をする。時間の都合上講座内で扱えないウイルスバスター設定の案内もこの時間に行っている。これらの内容を詳細に記載した資料を用意しているため、受講生が自宅に帰ってから各自で確認できるようにしている。

### 6.2 ビギナー講座

ビギナー講座の内容はセットアップ講座にパソコン初心者向けの内容を追加したものである。「ファイル」、「フォルダ」などのパソコン用語の説明や、マウス・キーボード操作がそれに含まれる。また、セットアップ講座では扱わないウイルスバスターの設定も講座の時間内に行っている。さらに、パソコンでのメールについての内容も扱っている。講座の時間は 3.5 時間(休憩含む)である。

ビギナー講座は受講生が TA に質問しやすいように、受講生 6 人程度のグループに TA が 1 人ずつ付く形式で行っている。前半の初期設定およびパソコン用語やキーボード操作は講師が前で説明を行う。受講生が実際に本格的な操作を行う後半は、各グループに付いた TA がグループの受講生に説明を行う。後半講師は教室全体を見て時間管理を行う。また、グループに付かず講座運営を補助する TA も 4 人程度配置している。

### 6.3 活用講座

活用講座は、PowerPoint, Excel, Word の順番で行う。各講座の時間は 2 時間(休憩含む)であり、1 日ですべての講座を行う。受講生は 7 日程の中から都合の良い日程を選んで受講する。あらかじめ文章や数値の入力されたデータを配布し講座を進める。これは講座進行の効率性を上げるためである。また、活用講座では ReNU が独自に制作したテキストを配布しており、講座後も復習できるようにしている。

#### ● PowerPoint 講座

PowerPoint 講座の目的は、受講生が PowerPoint を使って見やすいスライドを作れるようになることである。本講座では受講生が自己紹介スライドの作成を通して、PowerPoint の操作を習得していく。講座の最後には、受講生が自分の作ったスライドを使って、隣に座っている相手と自己紹介をする。

#### ● Excel 講座

Excel 講座の目的は、Excel の機能を知り、実際に利用することで、受講生の Excel に対する苦手意識を払拭することである。本講座では未完成の家計簿や時間割表などの Excel データを完成させる中で、Excel の操作を習得していく。講座で扱った機能・関数を復習できる練習問題も用意しており、講座の最後に受講生がこれを解く時間及び解説の時間を設けている。

#### ● Word 講座

Word 講座の目的は、Word を使ってレポートを自分で作れるようになることである。本講座では未完成レポートの Word データを完成させる中で、Word の操作とレポートのマナーも学んでいく。Excel 講座と同様、講座の最後に練習問題を用意している。

### 6.4 アドバンス講座

アドバンス講座では活用講座よりも発展的な内容や実践的な内容を扱う。アドバンス講座は、プレゼンスキルアップ講座(全学部対象)と理系レポート講座(理系学部対象)の 2 種類がある。各講座の時間は 3 時間である。プレゼンスキルアップ講座 8 日程、理系レポート講座 8 日程の中から新入生は都合の良い日程を選んで受講する。

#### ● プレゼンスキルアップ講座

プレゼンスキルアップ講座の目的は、受講生がプレゼンテーションに必要なスキルを学び、プレゼンテーションを作成するところから発表するところまでを経験することである。プレゼンテーションに必要なスキルとは、プレゼンテーションの構成、スライドのデザイン、立ち振る舞いなどである。名古屋大学では 1 年生の必須科目に基礎セミナーという講義がある。この

講義は学生一人一人が特定のテーマについて自ら調査し、自分の考えをまとめて、プレゼンテーションという形式で発表するものが多い。よって、新入生にとってはプレゼンテーションのスキルを入学前に身につけておく必要があり、それは本講座の需要が生まれている要因の一つである。受講生には事前課題を課している。時事問題や科学技術などに関する複数のテーマを用意し、それらのテーマについて簡単にまとめた資料を活用講座時に配布する。同時にプレゼンの基本構成や見本のスライドを載せた資料も配布する。受講生は興味のあるテーマを1つ選び、配布した資料を参考にしながら、自分の意見・主張を加えたスライドを講座受講日までにPowerPointで作成する。文系学部の学生も理系学部の学生も講座の対象であるため、幅広いテーマを用意している。2016年度の講座では、「大学の秋入学」「センター試験の改革」「遺伝子組み換え作物」「炭素税の導入」「親によるスマートフォンの利用制限」という5つのテーマを用意した。プレゼンスキルアップ講座では、3~5人の受講生で1つのグループを作り、各教室4グループで講座を進める。各グループには、講師及びTAが各グループの進行スタッフとして加わる。受講生は作成してきたスライドを用いて講座内に同じグループの人に対して2回発表を行う。1回目の発表はアイスブレイクの後最初に行う。スタッフにはフィードバックシートが用意されており、発表に対する評価を行う。1回目の発表が終了したら、講師がプレゼンテーションに必要なスキルについて解説する。その後、各グループのスタッフがフィードバックシートを使ってグループ内でフィードバックを行う。フィードバックシートは、講師が説明した項目をもとに作成されているので、受講生にとってはプレゼンテーションの気を付けるべきポイントのリストとなる。フィードバック終了後は、受講生が与えられたフィードバックをもとにスライド・原稿の修正を行う。最後に2回目の発表を行い、1回目から改善された部分を中心にフィードバックを行う。

#### ● 理系レポート講座

理系レポート講座の目的は、受講生が実験レポート特有のルールを習得し、ExcelとWordを利用して実験レポートを作成できるようになることである。名古屋大学の理系学生は、学生実験や研究活動でレポートや論文を書く機会が多くある。桁数やグラフの軸表記といった理系特有のルールについては、大学の講義でほとんど扱われていない。しかし、実験は主にレポートで評価されるので、実験レポートのルールを知っておく必要がある。講座では、あらかじめ配布されるExcelとWordの講座用データを用い、実験レポート作成に必要なスキルを扱う。講座の前半では、講師は主に実験レポートのルールの説明を行う。その後、受講生は操作追従形式で実験レポートのルールに従った操作を学ぶ。講座の最後には、受講生が未完成の実験レポートのデータを自力で完成させる演習の時間を設けている。

## 7. 成果

各講座終了後に、受講生に対してアンケートを実施している。アンケートの項目には、講座の難易度、進

行スピード、TAのサポート、講座の理解度などがある。それぞれの項目について5段階で評価してもらい、各講座の総合評価もつけてもらっている。このアンケートを基に各講座の受講満足度を表1に示す。

表1 各講座の受講満足度

講座名	「とても満足」「満足」と回答した回答者の割合
Windows用セットアップ	95%(回答者601人)
Windows用ビギナー	96%(回答者175人)
Mac用セットアップ	85%(回答者84人)
Mac用ビギナー	97%(回答者29人)
活用	76%(回答者676人)
プレゼンスキルアップ	88%(回答者254人)
理系レポート	79%(回答者292人)

講座運営をしている私たちが行ったアンケートであることや、受講生全員の回答が得られていないことから、受講生の総意が正確な数値として表れている訳ではないが、セットアップ講座およびビギナー講座は非常に高い満足度を得られた。セットアップ講座に関しては、ビギナー講座の新設によりセットアップ講座の内容が簡素化され、余計な内容のない受講生のニーズに合わせたものになったことが原因の一つだろう。ビギナー講座に関しては、講座内容がビギナー講座を選択した受講生にとって適切なものであったことを示していると考えられる。

## 8. ビギナー講座の新設

### 8.1 経緯

繰り返しになるが、ビギナー講座を新設した理由は受講生の情報リテラシー格差を解決するためである。クリックはマウスの左側のボタンを押すなどの基本的なパソコン操作が分からない受講生が一定数存在する一方、それらを既に知っている受講生も多数存在する。昨年度までは講座の中にパソコンの基本を扱う講座はなかったため、セットアップ講座の中でこれらを一部紹介していた。しかし、パソコンの操作を既に知っている受講生にとっては退屈な時間であり、知らない受講生にとっては不十分な内容であった。基本操作を知らない受講生は、基本操作をほとんど知らないまま活用講座を迎えてしまうので、Officeの操作を満足にできずに十分な学習ができていない状況であった。

### 8.2 内容

これらの問題を解決するために、希望者制・少人数制の初心者向け講座であるビギナー講座を新設した。これによりセットアップ講座をパソコンの操作を既に知っている受講生にとって余計な内容を除いたものとするのが出来た。そのため昨年度までセットアップ講座の講座時間を2時間30分に設定していたが、2016年度は2時間となった。Windows用セットアップ講座の主な内容を表2に示す。昨年度の同講座の内容も似たようなものだが、2016年度の講座では不要な説明を省いた。また、パソコンの操作があまり分からない受講生はビギナー講座でそれらを十分に身につけることができるようになった。ビギナー講座の受講生はパソコンに慣れていないと考えられるため、楽しくパソコ

ンを触ってもらい、パソコンを怖がることなく使うことができるということを実感してもらうということを講座の目標とした。Windows 用ビギナー講座の主な内容を同様に、表2に示す。

表2 セットアップ講座とビギナー講座の内容比較

セットアップ講座	ビギナー講座
	アイスブレイク(自己紹介)
	PC本体の説明
	パソコン用語の説明
	キーボード操作・文字入力
	学内でのPC利用
	Windows 10の説明・使い方
	学内無線LANの利用
	Officeの設定
	ウイルス対策・OneDriveなどの説明
	ウイルスバスターの設定
	メールのマナー
	メールソフトの設定
	メールの送受信
	電源の切り方

### 8.3 新設の結果

前述のように、ビギナー講座の新設により、セットアップ講座・ビギナー講座ともに高い満足度を得られた。また、セットアップ講座およびビギナー講座アンケート回答者 889 人のうち 609 人から「講座時間はちょうどよい」という回答を得た。受講生にとって必要な講座内容が高い受講満足度に繋がったのではないかと考えられる。また、セットアップ講座の内容が適切な受講生とビギナー講座の内容が適切な受講生が存在することが分かったため、受講生の情報リテラシー格差があることがより明確になった。ビギナー講座の受講生から寄せられた意見には手厚いサポートへの感謝も含まれており、パソコンに慣れていない受講生への的確な対応が出来たと考える。

一方で 271 人から「少し長い・長すぎる」という回答を得た。そのうち 212 人がセットアップ講座受講者であった。寄せられた意見の中に、「セットアップ講座・ビギナー講座のほかにも、ある程度パソコンに詳しい人用の講座も設けてほしい」というものがあつたことから、セットアップ講座の内容でも十分すぎるレベルの受講生が存在することも分かった。

### 8.4 問題点

新設したことによる問題点もある。ReNU の振り返りで主に挙げられたのは、提案方法と学内無線 LAN に関する問題である。

まず学内無線 LAN について、ビギナー講座では Office のインストールに加え、ウイルスバスターのインストールやメールの送受信など、インターネットを必要とする内容が多い。そのため同時に大人数で学内無線 LAN に接続する必要がある。しかし、そのためになかなかインターネットに接続できず、講座が時間内に終わられないことが複数回あつた。この問題は数人ずつインターネットに接続するタイミングに差を設ける

ことで解決する。

もう一つの問題が提案方法である。ReNU はパソコン講座の作成・運営に加え提案も行う。ビギナー講座は 2016 年度から始まった講座であるため、受講生がどのレベルのパソコン講座を求めているのか、またセットアップ講座とビギナー講座のどちらを受講するのが適しているのかを判断するのが難しかった。新入生が判断できるように内容の一部を並べたリストを用意していたが、非常に簡素なものであつたため、判断の手助けにはならなかつたという印象である。この問題を解決するには、より詳しい判断の指標を設けることが必要となる。

### 9. 次年度に向けて

8 章で述べたビギナー講座の改善点の以外に、現在 ReNU が抱えている問題点は主に 2 点ある。

1 点目は、活用講座における Mac の操作説明についてである。Office 操作において、Mac と Windows に操作の違いがみられたため、その点に関して説明をする必要が生じたが、できるだけ Mac を使う受講生をできるだけ一部分に集めること、従来通りの Windows をベースとしたスライドでの説明であつたため、Windows と操作が異なる点を、スライドを用いて説明する、或いは、冊子を配ることにより対処した。しかし、活用講座自体が Windows をベースとして作られていたことから、Windows と Mac でそれぞれ説明しなければならなかつたため、受講生に混乱を生じさせ、Mac の操作説明時に Windows を使う受講生を長時間待たせるといふことがおきてしまった。その点に関して次年度は、Windows と Mac の活用講座の日程を分け、Windows と Mac それぞれをベースとした活用講座にし、対処していく。

2 点目は、活用講座の内容の見直しである。文系・理系両方が同じ内容の講座を受けるため、難易度に差が生じてしまう他、操作追従であるため退屈な時間を過ごしている受講生もいる。講座内で説明する機能を検討し直し、より大学生生活に即した講座内容にしていく。

### 10. 終わりに

ReNU の PC 講座が克服しなければならない問題は、活用講座の内容を見直し、Windows・Mac ともに、いかに退屈な時間を過ごさせない講座にできるかである。そのため我々は、Mac 用活用講座を Windows 用活用講座と分離させ、講座内容を再編することにより、これらの問題の解決に努めていく。そして、新入生により良い PC 講座を提供できるように日々の活動に取り組んでいく。